

SUNDAY NIKKEI

A 為替相場に対する専門家の見方と有効と考える投資法(運用会社や投資信託は一部略称)

前川貢さん(FP)	深野康彦さん(FP)	佐々木融さん(JPモルガン・チェース銀行債券為替調査部長)	竹中正治さん(龍谷大学教授)
円相場の上限について米ドル80円、ユーロ100円、豪ドル70円まではあり得る。また、ユーロは長引く可能性がある。ここからのブラジルレアル投資はリスクあり	日本の成長力の低さを考えると、円高は一時的。ただしユーロ安は長引く可能性も。ここからのブラジルレアル投資はリスクあり	購買力平価でみると、今のレベルは1995年当時と比べて実質的には特に円高にはなっていない。ドルもユーロも円に対して一段の下落余地も	ドルはやや割安。来以降の米景気回復が見えてくれば90~100円台への回復も。ただ日本のデフレ状況が継続なら一時的な円安の後は再び円高基調に。ユーロには当面悲観的
先進国外債投資は信託アセットの「STAMグローバル債券」や三菱UFJの「eMAXIS先進国債券」など低コストのインデックス型。豪州やカナダの比率を高めた「ハッピーローバー」など	円高時のうちに外債MMFを外貨を確保。海外で長期金利が上昇すれば外債MMFから外債に移す選択も。銘柄選別に自信があれば外国株の成長銘柄も。時間分散を基本に	物価を考慮しない名目レートや金利差だけで判断し、外貨投資の比率を増やして過剰な危険。過去20年、物価上昇率の低下を主因に円は強い通貨であり続けていることを認識すべきだ	現在は株式が有効。日興アセットのETF「上場インデックスファンド海外新興国株式」や、多くの運用会社が設定しているMSCIコクサイ指数(日本以外の先進国株式に連動)型のETFなどがいい

為替相場の円高が話題を集めている。対ドルでは一時、1995年以来15年ぶりに1ドル84円台に上昇した。個人投資家は今後外債投資にどう向き合えばいいのか。長期投資の視点から専門家に意見を尋ねてみた。

「通貨ごとに最大どれくらいまで円高があり得るか、自分なりのイメージを持っておくべきだ」というのは、ファイナンシャルプランナー(FP)の前川貢さん。前川さんは米ドルで80円、ユーロで100円、豪ドル70円とみていて、「すでにその水準に近づいていて、以前よりリスクは小さい。外債投資には好機」と話す。

円高

「通貨ごとに最大どれくらいまで円高があり得るか、自分なりのイメージを持っておくべきだ」というのは、ファイナンシャルプランナー(FP)の前川貢さん。前川さんは米ドルで80円、ユーロで100円、豪ドル70円とみていて、「すでにその水準に近づいていて、以前よりリスクは小さい。外債投資には好機」と話す。

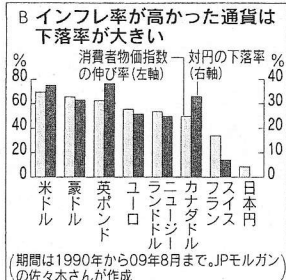
外債投資戦略を練る

安定運用なら先進国の外債投信
保有コストを考慮

一部銀行でも買える。現時点では、外債MMFの為替差益は課税後、銀行には外債預金もあるが、為替手数料が通算、売り買いの一方だけで1ドルあたり1円と外債MMFの倍はかかる。また、差益も課税対象なので、専門家の多くは外債預金を勧めない。ただし、銀行では1ドルあたり25銭ほど、一部のネット銀行では外債MMFより低いところもある。

少し難くなるが、ここで為替相場と物価の関係を整理しておこう。「1ドル84円」という水準だけを見て、95年の円高時と同じだと考えるべきではない」というのは、日銀出身でJPモルガン・チェース銀行債券為替調査部長の佐々木融さん。

相場の上限下限を読む

デフレ続けば
円に上昇余地

物価変動も加味
物価変動を考慮した為替の適正レートを購買力平価という。自分で計算するのは大変だが、ドル・円とユーロ・円の長期的な購買力平価(PPP)と呼ぶグラフ(CとD)は、国際通貨研究所のサイト(http://www.imr.or.jp/)の調査レポート「のコーナーで簡単に見られる。かつ、メガバンクの為替部門などに在籍し、現在は龍谷大学教授を務める竹中正治さんは、実際の相場がいつ購買力平価に近づくかは予想できない。短期的な予想に役立たない。ほとんどの市場でも話題にならない。しかし個人が長期投資を志す際には、重要な参考材料になる」という。

例えばユーロとドル、ドルの購買力平価は日本のデフレを背景に長期的に円高方向に進んでいる。実際のドル・円レートは、国際間の価格調整が反映しやすい「輸出物価ベース」のPPPを「円高の上限」に、企業同士の取引価格で示す「企業物価ベース」のPPPを「円安の下限」として推移している。

05~06年のように企業物価ベースのPPP前後の円安時に投資すれば、その後円高になって損が出してしまうことが多かった。しかし今は、「購買力平価でみると対ドルでは極端な円高とまでは言えないものの、投資に乗り出してもいい時期」(竹中さん)。一方、ユーロについては前出の佐々木さんは「過去に割高過ぎたが適正レートに近づきつつある段階。さらに下落余地もある」と話している。

もちろん米景気に安心感があれば「いったん1ドル80円台くらいまでは簡単に戻りそう」(竹中さん)。との声も多い。しかし日本のデフレが続くなら、長期的には再び円高に動く可能性もある。このため多くの専門家は「一度に外債投資せず、時間を分散して少しずつ買い、リスクを抑えるべきだ」としている。

自らも投資経験が長い竹中さんは「今は国内外とも債券より株式が割安」とみる。「新興国株や先進国株に幅広く投資できる低コストのETF(上場投資信託)などで購入時期を分散しながら投資しては(表A参照)」と話す。

通貨選択型投資など最近人気のブラジルレアルなどはどうか。FPの深野さんは「確かに成長力は魅力的だが、日本からの資金などですでに株も債券もかなり買われている。今から投資しても期待通りの利益を得られるかは個人的に疑問」と話している。

(編集委員 田村正之)

独立系のありがたう投資も「ライフポートナー」の名称で実施して

家計を教える

ランナー氏

心として、約68.3%、6割

平均値

標準偏差

標準偏差×2

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

標準偏差

「間」がテーマ。クラブツーリズムの旅。

行便利
東海岸4大都市
バンタム ライオンフィア ポストン ニューヨーク

成田からワシントンまで直行便で約12時間30分(往復)、約14時間(復路)通常乗換便と乗り換え時間も含めて片道約15時間~20時間かかります。

お申し込みを
ご検討の方へ
**旅行募集
説明会**
のご案内

各出発日
**26名様
限定!!**

コース番号
15285-543 1名様
50,000円

世界遺産
マウントクック

参加無料、要予約

インターネットでいつでもお申し込み **24時間受付中!** www.club-t.com (多言語)

ビジネスクラス
ニュージーランド浪漫街道
往復ビジネスクラス

往復・成田-オークランド間(11月10日2月出発の往復は成田-クライストチャーチ間)

インターネットでいつでもお申し込み ツアーの状況・日程も確認できます <http://ctmb.jp/>